

第六十四回全国俳句大会 当日句成績

日時 令和七年九月十六日

会場 有楽町朝日ホール

浅井 民子選

特選

朝市の秋刀魚目を開け売られをり

持田由美子

貼り足して切手の曲がる残暑かな

平沢千恵子

新涼や木のハンガーに綿のシャツ

星野 麻子

入選

宵の秋かつて卯波はこの辺り

広海あぐり

農の祖の裔を称へて曼珠沙華

山中 洋子

過ぎ去りし月日の嵩さや終戦日

猪瀬 達朗

ガマに立つ若き語り部風薫る

田中 久幸

母こそが戦後の戦士薩摩芋

藤埜まさ志

広島に生まれて生きて秋深し

殿村 礼子

秋うらら焼きたてパンの深呼吸

大木 雪香

黙禱の一分間の残暑かな

曾根新五郎

噴水や少し地球をはみだして

穴野 宏治

名月や真竹の猪口に大吟醸

野村 雅子

マウンドに円陣を組む子規忌かな

亀澤 淑子

マネキンと目の合ふ銀座秋うらら

門脇 明子

嘶家の音なく滑る秋羽織

松山三千江

夏惜しむサーカス小屋の跡に穴

齋藤 満月

父子の舞ふ奉納獅子や豊の秋

横山 里子

今瀬 一博選

特選

葛の花きれいな声の欲しくなる

ジーンズの膝抜けてゐる墓参かな

父の煙草長く崩るる終戦日

入選

ことさらに二百十日の空の青

八十年続きし平和豊の秋

貼り足して切手の曲がる残暑かな

ガマに立つ若き語り部風薫る

真つすぐに垂らす筆先水の秋

麦稈帽一点動く千枚田

故郷のある嬉しさの今年米

みちのくの遮光器土偶雁を待つ

物欲の失せてゆきたる花野かな

被災地へ募金して入る踊りの輪

ひとごゑを少し離れて草の花

目が乾き口が渴きて終戦日

今生を楽しんでゐる案山子かな

ちちろ虫うからはらから綴れさせ

幼少中一貫校や小鳥来る

大西 朋

星野れい子

星野猪久子

片山佐和子

栗原 公子

平沢千恵子

田中 久幸

山田 蹴人

松永 明美

坂間 壽子

坂内 佳禰

宮本 素子

金子美津子

荒井 泉

廣岡あかね

清水 和代

森岡 正作

橋本 幸子

河原地 英武選

特選

ガマに立つ若き語り部風薫る

母こそが戦後の戦士薩摩芋

敬老の日なり日の丸はためかす

入選

底紅や保育所にまだ母待つ子

醤油屋の木樽に残る暑さかな

予報士の猛暑てふ声弾みをり

帰燕はや湖沿ひの町眼下にし

コスモスのどの向きからの風も好き

葡萄一房腑分けの如く取り出しぬ

夏惜しむサーカス小屋の跡に穴

冷房のソファ―に沈み木偶となる

新涼や木のハンガーに綿のシャツ

目が乾き口が渴きて終戦日

秋澄むや影濃きものの中に鳥

父子の舞ふ奉納獅子や豊の秋

これよりはひとり暮らしや鳳仙花

歪みたる虫喰ひりんご地球病む

よく動く敬老の日のわが十指

田中 久幸

藤埜まさ志

小西 弘子

中根由起子

豊田・ヌー

齊藤 保志

武藤壽美江

平沼佐代子

今井 聖

齋藤 満月

安部川 翔

星野 麻子

廣岡あかね

みわ・さかい

横山 里子

菅原 明子

下村たつゑ

藤本美和子

下坂 速穂選

特選

「あ鈴虫」とつい仲直りせし夕べ

灯火親し食卓小さき書齋にし

秋の七草諳んじ母のひと日果つ

入選

大太鼓途切れてゆるむ踊の輪

三本足まだまだ行かむ敬老日

秋晴れや伊根の舟屋の二百軒

朝顔やチャイムのゆるむ木造舎

烏賊干しの海の雫を残したり

朝顔やうさぎ係の子の会話

ジーンズの膝ぬけてゐる墓参かな

もう開かぬ口に湿らす新酒かな

我に風蜻蛉に風や子規の庭

ちちははの出逢ひはしらず十三夜

子の課題手伝ふ針や敬老日

仏から小机借りて月祀る

さりげなく差して漢の秋日傘

今朝秋や鏡の中に母の顔

水澄むや新幹線の小さき窓

花澤ちいこ

七田 文子

朝倉さき子

大和田アルミ

栗原 勝風

久我 寿幸

香川 純二

井本とき子

秋澤 夏斗

星野れい子

新原 健

荻野加壽子

岸根 明

藤田美弥子

原 瞳子

前田いづみ

川口 呼瞳

六車 佳奈

福神 規子選

特選

子に映る吾の弱さや汀女の忌
コスモスのどの向きからの風も好き
ひぐらしの声夕暮をふくらます

坂内 里桜
平沼佐代子
山下由理子

入選

朝市の秋刀魚目を開け売られをり
新涼や貝のボタンに虹の色
師へ捧ぐけふの入賞秋日燦
底紅や保育所にまだ母待つ子
秋の七草諳んじ母のひと日果つ
貼り足して切手の曲がる残暑かな
広島に生まれて生きて秋深し
祝ぎの座へ道づれとなる秋裕
もう開かぬ口に湿らす新酒かな
秋日傘みづうみ見ゆるところまで
父と子の寢息大らか十三夜
父の煙草長く崩るる終戦日
はらはらと落雁の影沼昏るる
抱くやうに背を彫る仏師秋気澄む
幼少中一貫校や小鳥来る

持田由美子
平野みち代
吉浦 増
中根由起子
朝倉さき子
平沢千恵子
殿村 礼子
佐藤 弘
新原 健
増山 叔子
山田 千絵
星野猪久子
水谷 邦子
滝本 史代
橋本 幸子

依田 善朗選

特選

墨匂ふ卒塔婆受けて盆送り
真つ直ぐに垂らす筆先水の秋
沖縄忌知る泣く怒る考へる

中村まもる
山田 蹴人
董久

入選

榛の木の零す朝日や水の秋
醤油屋の木樽に残る暑さかな
貼り足して切手の曲がる残暑かな
威勢よく男の開く黒日傘
麦稈帽一点動く千枚田
朝顔やチャイムのゆるむ木造舎
コスモスのどの向きからの風も好き
ジーンズの膝抜けてゐる墓参かな
ひぐらしの声夕暮をふくらます
濃淡を田ごとにたがへ稲穂波
秋空へ棒高跳びの脚を差す
ひとつゑを少し離れて草の花
目が乾き口が渴きて終戦日
白桃や湖におほきく影のある
抱くやうに背を彫る仏師秋気澄む

工藤 文子
豊田・ヌー
平沢千恵子
谷中 鈴子
松永 明美
香川 純二
平沼佐代子
星野れい子
山下由理子
木村麻利子
大西 主計
荒井 泉
廣岡あかね
森山 文結
滝本 史代